

平成 25 年度 宮城野図書館利用者懇談会 実施報告

- 1 日 時 平成 26 年 3 月 14 日（金） 13 時 30 分～15 時
- 2 会 場 宮城野図書館視聴覚室
- 3 参加者 利用者 2 名、ボランティア団体 1 名、小学校 1 名、児童館 1 名、
市民センター 1 名、 宮城野図書館 3 名

4 次 第

開会后、館長挨拶

出席者紹介並びに自己紹介

協議内容

（1）宮城野図書館の現状と課題

仙台市図書館要覧・仙台市図書館振興計画について 資料解説

図書館サービスに対する評価について 図書館アンケートの概要

（2）宮城野図書館に関するご意見・ご要望

利用者代表より順にご回答

5 主なご意見

利用者代表より

建物構造上の利点・欠点

- ・ 1 階に作ってほしかった
- ・ 地下にあり不便、分かりづらい、近代的で雑然とした雰囲気なので旧館の方が落ち着く感じ
- ・ バリアフリー、ワンフロアで各対応が可能になったのは良い きれい、場所は便利

※図書館より 土地の構造上致し方ない部分もあり、ご不便をお掛けしている

面積が、旧館より狭くなってしまっている

開架部分の資料を増やし、余剰空間を活かして、ゆったりした空間を増やす工夫をしている

利用者のモラル

- ・ 乳幼児のしつけマナーの低下が目に見えることが多い 何とかならないものか
 - ・ 児童書コーナーとレファレンスルームの配置に問題があるのではないか
- ※学校より 学校では、学校図書館の利用などを通じて社会教育をやっている

※図書館より 床面を絨毯敷きにしたので、足音に関する苦情はなくなった

お願いをする声も皆さんに聞こえてしまう部分があり、やりとりが難しいところがある

接遇

職員対応は良い

ボランティアより

- ・活動拠点の場として、グループ利用しやすい環境を設けていただきたい
- ・職場体験・見学の結果を図書館の利用向上に活かしてほしい
 - ※図書館より 約束事を守ってもらえるように、指導の場としていい機会となっているのではないと思われる
 - ※学校より 利用の拡充、連携を取っていききたい
 - しつけの部分があるし、公共の場なので認識の差異はあるかと思うが、絶対してはいけないことを教え、しつけできない大人にならないように指導していききたい
- ・障害者、社会的弱者に配慮を（声の大きさ、動き等）大目に見てほしい
 - 目の不自由な方は特に付添の方と会話が生じるので
- ・利用する側の認識の差により許容範囲が変わる
- ・図面・地図・表はデジタイズ・音声読み上げ機の対象外 弱視の方にもっと朗読奉仕や、読み上げ機の普及を
 - ※図書館より 朗読奉仕の会の方たちの協力で、音声資料、広報誌の録音など作成中
 - 再生機器の職員研修も行っているところ
- ・図書の破損は、セロテープで直されるのが一番困るため、申告のみにとどめてもらえるようお知らせできないものか
- ・マナーアップキャンペーンを定期的実施してはどうか
- ・広報・図書館の使い方をもっと周知してほしい

児童館より

- ・子育て中の親御さん向けのブックトークの実施希望（子育て支援、おすすめ本、旬な情報）
- ・年齢層が幅広く世界観が違うので、扱いに難しいところが出てくるが、読書によって一緒の世界を共有できると良いと望んでいる。
- ・のびすくと児童館、根本的に違います（幅広い利用が可能な施設である）
- ・共催の事業にご協力いただき感謝、引き続きよろしく願いしたい

市民Cより

- ・図書館を市民Cの広報の場として提供いただきたくご協力お願いしたい。
- ・事業連携の面でも引き続きよろしくお願いしたい。
- ・郷土資料の利用が多いので、どこにあるのか、利用してよいのかわかるように
 - ※図書館より 郷土資料は、レファレンス室に用意してあるが、利用頻度が低いようなので、もっと親しみのある表示環境にしていきたい
 - 共催事業は、読み聞かせボランティアからの提案により初の試みだったので、これからも協力していきたい。
 - レファレンスの周知という課題が多く見えてきたので、より一層努めてまいりたい。
- ※学校より 一個人として、検索方法、便利な使い方もっと分かり易いようにしてほしい
- ・大学図書館との連携はあるのか
 - ※図書館より 相互貸借の案内、大学図書館への紹介方法

ボランティアより

- ・利用者にもっと図書館の情報提供を

子どもさんの利用について児童館としてどのようにとらえているのか

※児童館より 小学生以上の児童館利用者と乳幼児や保護者が利用する「のびすく」とでは認識の違いはある。児童館では、ルール作りをしている。

ほか、共催事業の連携強化、情報共有等話題提供